



出演

池上彰

佐藤優

内田樹

樋田毅

望月歩

監督

代島治彦

音楽

大友良英

脚本

鴻上尚史

原案

「彼は早稲田で死んだ」

（著者）

加藤文彦

撮影

加藤孝信

編集

代島治彦

プロデューサー

沢辺均

制作

スタジオ101

製作

スタジオ101

制作

スタジオ101

# 杜

彼は早稲田で死んだ

# ゲバルトの

# 全て革命の ための



# 革命を志した若者たちはなぜ、殺しあったのか。

## “内ゲバ”の死者は100人を超える。

約50年前の1972年11月8日、早稲田大学キャンパスで一人の若者が殺された。第一文学部二年生だった川口大三郎君。自治会を牛耳り、早大を支配する新左翼党派による凄惨なリンチが死因だった。学生運動終焉期にエスカレートした“内ゲバ”の嵐。その死者は100人を超える。理想に燃えた当時の若者たちが革命という名の下に肯定していった「暴力の論理」を今、解き明かす——。

★内ゲバ=内部ゲバルトの略。ゲバルトはドイツ語で「暴力」を意味する。一般的には日本の学生運動や新左翼党派間での暴力行使した党派闘争を指す。



## 内田樹、池上彰、佐藤優と当事者たちが“あの時代”を語り、 鴻上尚史・演出の短編劇が炙り出す“内ゲバ”の不条理 死んでいった者たちと生き残った者たちの、悔恨と鎮魂を刻印するミクスチャー・ドキュメンタリー

“内ゲバ”の真相に当事者の視点から切り込んだ書籍『彼は早稲田で死んだ』との出会いから本作の製作は始まった。著者の榎田毅をはじめ、現在は70歳前後の当事者たちの証言が積み重ねられていく一方で、「内ゲバとは何だったのか?」という大きな疑問が広がっていく。その疑問を現在に手繰り寄せるために、川口君事件を再現する短編劇パートを創作。演出は早大出身の劇作家・鴻上尚史、演じるのは現代の若者たち。監督は『三里塚に生きる』『三里塚のイカロス』『きみが死んだあとで』で政治闘争が渦巻いた“あの時代”を描き続けてきた代島治彦。徐々に過去の歴史になりつつある時代の記憶と体験を、四たびドキュメンタリー映画に凝縮した。音楽は代島監督作品には欠かせない大友良英が担当。激情と悔恨が織り混ざった楽曲が、本作全体を覆う暴力と無力感、そして相反する鎮魂のイメージを奏でる。“内ゲバ”をめぐる不条理と、“あの時代”の熱量と悔恨を、立体的な手法で刻印したミクスチャー・ドキュメンタリー映画がここに誕生した。

原案本 **彼は早稲田で死んだ**  
大学構内リンチ殺人事件の永遠  
著：榎田毅／文藝春秋

不条理な暴力に私たちはどう抗えるのか。連合赤軍リンチ殺人事件が世の中を震撼させた1972年の秋、キャンパスで起きた川口君虐殺事件を機に録音した一般学生による自由獲得への闘い、そしてその敗北。内ゲバの時代の真相に迫る渾身のルポ。第53回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。

**彼は早稲田で死んだ**  
榎田毅  
早稲田大学構内リンチ殺人事件の永遠の証言者  
内ゲバが燃え尽きた1972年、早稲田大学構内で起きた川口君虐殺事件の当事者として、録音した一般学生による自由獲得への闘い。その時、キリスト教で何が起きていたのか……。闘いで理不尽な暴力に打ち負け、後悔による苦しみから、  
**僕は忘れない。**



## ゲバルトの社 彼は早稲田で死んだ

監督・企画・編集：代島治彦 撮影：加藤孝信 プロデューサー：沢辺均 音楽：大友良英 劇パート出演：望月歩(川口大三郎役)、遠藤等和(女闘士役)ほか  
出演：池上彰、佐藤優、内田樹、榎田毅、青木日照、二葉幸三、藤野豊、永嶋秀一郎、林勝昭、岩間隆生、吉岡由美子、大橋正明、白田謙一、野崎孝志、岡本厚、菅裡一紀、石田英敏  
制作：スコブル工房 製作：「ゲバルトの社」製作委員会(ポット出版+スコブル工房) 宣伝：テレサ 配給：ノンダライコ 2024|日本|134分|日本語|カラー|DCP  
gewalt-no-mori.com X@gewalt\_no\_mori f@gewaltnomor @gewalt\_no\_mori



5/25(土) 全国順次公開  
全国共通特別鑑賞券¥1,500(税込)

渋谷・文化村前交差点左折  
**ユーロスペース**  
EUROSPACE  
03-3461-0211 eurospace.co.jp

